

関西TLO

欧米で技術移転事業

加州拠点に 駐在員配置 知財、月2、3件提案

【京都】関西アイ・エル・オー（関西TLO、京都市下京区、中川博次社長、075・353・5890）は、欧米で技術移転事業の本格展開を始めた。米国のBプリッジインターナショナル（B・B、カリフォルニア州）と提携して、08年末にシリコンバレーに事務所を開設。京都大学の特許などを、米国の中堅・中小企業に売り込む。日本のTLOの海外進出はまだ少ないのが実情。国内の事業環境が厳しいため、海外展開で事業拡大へつなげる。

カリフォルニア州の事務所は「関西TLOシリコンバレーオフィス」で、B・B社内に設けた。当 faced ベースでスタッフを派遣し、09年中に駐在員を置く予定。京大、和歌山大学、立命館大学、京都府立医科大学のバイオや材料、農業、ITなどの知的資産を月2、3件のペースで米国企業に提案する。売り込む特許についてB・B社の診断試験の販売やインキュベーション事業で培ったネットワークを活用。

対象企業を事前調査したり契約サポートなどを行
う。また共同で、海外展
示会への出展や人材育成
なども計画している。
対価が低く交渉期間が

長いなど日本でのTLO環境は厳しく、大市場である海外の展開が課題。大学側も海外経験の豊富なTLOへ委託志向が強

く、海外実績やノウハウの早期習得が知的資産委託の獲得や生き残りに不可欠と判断した。これをテコに国内外での同事業

売上高を、2011年12月期は2億円（08年12月期は約5000万円）に引き上げを目指す。